

バラの花は、さみしそうに言いました。

「チヨウチヨさん、ありがとう。でも、わたしはもうすぐ切り取られて、お家の中にかざられて、かれてしまふのよ。どこにでも、自由にとんでゆけるチヨウチヨさんがうらやましいわ」

「あら、わたしだって、いつ強い風にふきとばされるかわからないし、坊やや、小鳥においかけられたり、クモやカマキリにつかまったり、はげしい雨で地面に落とされるかもしれないのよ」

それを静かに聞いていたタンポポは、ニッコリとほほえみました。

「みんな、短い命だけれど、バラさんは、来年もきつと、このお庭で、きれいなお花を咲かせて、皆を楽しませるでしょうし、チヨウチヨさんも、はっぱに産んだたまごがかえって、ようちゆうからさなぎになり、春になつたらまた、青空をどこまでもとべるようになるでしょう。もうすぐわたしも、わたのよ

うなタネを風にはこんでもらって、そこで花
を咲かすのよ。このつぎの春も、またどこか
でお会いしまししょうね」
バラの花は、心から楽しそうな笑顔になり
ました。

チヨウチヨも、心が、春の日差しで温めら
れたような気持ちになりました。
そしてチヨウチヨは、太陽に向かって、白
い花びらのように飛んでゆきました。